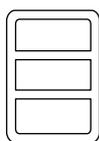


# かねざわ

第52号

平成27(2015)年2月

- ・興味をそそる「弁才天」のいわれと「称名寺」境内保存の記事掲載 (P23,25)
- ・「会員動静」欄を新設 (P29)



## 運営委員会からのお知らせ

- 2 分科会代表との連絡会 報告
- 5 “わ”の会「世話人」募集
- 5 「フォーラム KANAZAWA」参加見送り
- 6 継続会員の状況と新規会員募集

## 事典編集委員会報告

- 6 第4回編集会議より

## 学習会

学習会の概要とアンケート結果

- 7 第5回「古文書(古地図)から見た泥亀新田開発

## 分科会からの便り

- 9 「懐かしの映画」鑑賞録 No.17 佐藤 晃
- 12 「浮雲俳句会」抄録 No.28 北野 清市

- 15 日蓮聖人ゆかりの寺を訪ねる 鈴田 祥代
- 17 「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 No.8 小俣 悦男
- 19 「古文書を読む会」からのたより(5) 真田 雅行
- 22 パソコン何でも相談室【3】 林 洋
- 歴史研究
- 23 弁才天と宇賀神 熊谷 哲
- 会員からの寄稿
- 25 開発と保存 = 尾瀬と称名寺 = 相川 勲
- 29 会員の動静
- 行事予定
- 30 3月~5月



## 金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ:<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル:yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

## 分科会代表との連絡会 報告

各分科会代表と運営委員との平成 26 年度連絡会が開催されました。  
その内容を報告します。

日 時 平成 27 年 1 月 10 日 (土) 10:30~12:30

場 所 区民活動センター会議室

出 席 寺社を巡る会：松本代表

古文書を読む会：真田代表

ふれあいの道歩こう会：小俣代表

懐かしの映画を観る会：佐藤代表

浮雲俳句会：北野代表 (設立順)

(欠席：パソコンを使いこなす会 林代表)

運営委員：今井 金間 沓掛 大門 鈴木 江口 柴土 山腰 内田 (欠席：岡田)

### 1. 今井代表挨拶

お忙しいところお集まり頂きかつ 1 年間のご協力有り難う御座いました。

今年は特に学習会の出席率が良かった。

会員継続は 126 名中 112 名が継続手続きをされました。

1 年目退会のケースが多い、2 年目以降分科

会に入られた方は継続のケースが多い。

年令的に学習会含めて参加が厳しく、退会となるケースも多くなってきています。

本日は各分科会の活動報告と今後について忌憚のない意見を頂きたい。

宜しくお願いします。

### 2. 各分科会活動報告 —今年度の活動状況と来年度の予定—

1) 寺社を巡る会 (松本代表) 会費：1,000 円/月 例会：1 回/月

・会員数：45 名(現役 39 名)

毎回 30 数名参加

・活動：3 班体制 定例寺社巡りは第 1 木曜日開催、今年は横須賀市観光ボランティアガイドの会へガイド依頼し、三浦 33 観音巡りを計画(平成 27 年 7 月迄)、8 月、9 月は暑いので通常の寺社巡りは取止め、8 月は座学、9 月は大山を計画、10

月は特別探訪として身延山久遠寺拝観をバスにて実施しました。

平成 27 年度は神奈川区ガイドへ依頼、里山と絡めての寺社巡りを計画。

今井代表：“わ”の会の方向と特にリンクしている分科会と理解しています。もっと会員を増やして頂きたい。

2) 古文書を読む会 (真田代表) 会費：1,000 円/年 例会：2 回/月

・会員数：15 名(病欠 1 名)

・平成 26 年 基礎講座

前半：継母の継子いじめ

後半：東海道中膝栗毛(再登場)

第 1 学習：宿村布川家文書

第 2 学習：江戸時代の絵島生嶋事件

・平成 27 年 基礎講座

前半：“わ”の会「古文書に親しむ」  
(入門編)

後半：「五人組掟書」(応用編)

第1学習：泥亀新田村「永島家文書」から

前半/異国船取押方日記

後半/寺院梵鐘取調上帳

第2学習：ジョン万次郎帰朝記事

- ・今井代表：ジョン万次郎について会報へ掲載を要請。

3) ふれあいの道歩こう会(小俣代表) 会費：4,000円/年 保険：1,000円(任意)

- ・会員数：20名(内女性：7名、35%)  
例会：1回/月(8月休み)
- ・創設12年目、安全安心が大前提。
- ・関東ふれあいの道を88回で完歩後、独自コースを設定し2年経過、21番コース迄来た。
- ・平成26年7月実施回数100回記念として日赤に講師要請「安全登山の救急法」の実習と座学を行った。(バンドナ、スト

ック等を利用した救急手当)

- ・参加率：平成26年/65% 平成27年は80%目標。
- ・75歳以上6名、高齢者が増えて来ている、最高齢は80歳、ますますチームワークを心掛け、安全安心な山行を徹底したい。
- ・計画：2015年は尾瀬、2016年は草津・志賀高原の一泊の山行を計画。

4) 懐かしの映画を観る会(佐藤代表) 例会：2回/月 会費：1,000円/年

- ・会員数：80名(女性26名、33%)  
年度計画：4月～3月
- ・平成26年度参加者1番：63名/4月：遠き落日(5月学習会とタイアップ)、10年間でも1番。平均参加者数：47名

- ・平成27年度計画は邦画・洋画のリストを会員へ提示、人気投票と代表の選択で上映リストを作成し、会員へ提示し、実行して行く予定。

5) 浮雲俳句会(北野代表) 例会：1回/月 会員数：17名 会費：1,000円/月

- ・平成26年7月～「河川俳句」シリーズ  
平成27年7月～「島嶼」シリーズ  
6,800の島、94%が無人島

- ・テーマは2つ、兼題と12月は「冬季雑詠」で句を詠み、天地人賞を選定。

6) パソコンを使いこなす会(林代表が欠席の為鈴木会員が説明)

- ・会員数：25名 会費：1,000円/年  
臨時1,000円
- ・初級コースを修了し、テーマを決めての中級コースへ入って来た。
- ・平成27年度：テーマをリストアップ⇒投票⇒上位5位をテーマへ。

- ・windows7以上が主体となって来ており、XP・VISTAクラスは扱いにくくなって来ています。
- ・講師役として新海氏がテーマ別に担当、林代表と2人体制で運営している。

### 3. 分科会10周年記念事業

#### 1)懐かしの映画を観る会

- 平成16年7月にスタート10年目 251本鑑賞して来た。
- 10周年記念事業実行委員会をスタート、3回開催、内容を検討して来た
- 事業として3本の柱。

- ① CD作成：平成27年4月完成目標 251本のコメント、画像へのリンクを計画。

作成枚数：100枚 映画の会員へ配布予定。

※今井代表：

“わ”の会会員全員への配布を要請  
⇒配布範囲は実行委員会で論議し、決めた経緯があるので検討させて頂き

たい。

- ② 講演会：「懐かしの外国映画100選」  
仮題 平成27年6月を予定  
講師 佐藤代表  
場所 横浜市大ビデオホール予定
- ③ 祝賀会：講演会后予定  
会費¥3,000程度  
横浜市大シーガルホールを予定

#### • 予算

“わ”の会補助金3万円 +映画の会若干の期末残金を充てる。マイナスが出た時は平成28年度会費徴収時に若干のプラスを考えたい。

#### 2)浮雲俳句会

- 記念誌発行(縦書き) 平成27年6月まで募集、平成27年秋完成目標。

“わ”の会会員全員へ配布を予定。

### 4. “わ”の会の運営に関する事項

#### 1)平成26年度実績報告

- 2月公開講座申込 94名

#### 2)平成27年度学習会予定

#### 3)平成27年度運営委員役割分担(案)

#### 4)平成27年度“わ”の会学習会テーマ・講師・担当(案)

#### 5)第3版事典編集委員会基本方針(案)

(改訂、追加)項目確定 1、共に会報へ適宜掲載して行く。

#### 6)会報について

- 1~50号 CD発行

- 「分科会からの便り」充実してきた。

#### 7)ホームページ“わ”の会通信について

- ホームページ管理者の複数化

—長年の課題

- “わ”の会通信は会員の90%位に配信、配信しないと中々ホームページの更新部分がわかりづらく閲覧と繋がりにくいのでは。

### 5. 意見交換

- 運営委員の名札は色を変え、かつ運営委員と明記、新入会員が相談し易い雰囲気作りが必要では。(相談したくても何方にしたら良いのか判らないのが現状では)。

- 新入会員とのコミュニケーションの場の設定が必要では。分科会へ入会し易くなる様、運営委員交えての分科会代表とのコミュニケーションの場の設定も必要。

## “わ”の会「世話人」募集

新年度に向けて“わ”の会の運営に関わる「世話人」の募集をしています。世話人とは下記の人たちのことです。

- 学習会を中心とした“わ”の会行事の「世話人」(＝運営委員)
- 会報発行の「世話人」(＝会報編集委員)
- ホームページの「世話人」(＝ホームページ委員)

### 活動内容

それぞれ、「世話人」が集まって話し合い、協力して企画・準備・実施をしています。

### 取り組み方

時には激しい議論や難しい問題への対応もありますが、ボランティア活動ですから、それが気晴らしになっても、精神的ストレスになるような取り組み方はしません。

個人の得手、不得手に応じて役割分担をし、適度な刺激と義務感のもとで活動しています。

### 活動の成果

そして、ひとつのことが終わるごとに、“少しは会員の皆様方にお役に立っているのだ”との満足感・充実感を得ています。

また、「世話人」が集まって1つのことを行うことで、相互の交流が深まります。

### 委員会は「分科会」の1つとも

1つのことを行い、相互の交流を深めるという意味からは、委員会は「寺社を巡る会」や「古文書を読む会」などの6つの分科会と同列の7つ目、8つ目、9つ目の分科会とも考えられます。分科会よりも人数が少ないので、交流の深まりはより大きいと言えます。

こんな「世話人」をやってみませんか。まずは一度、それぞれの委員会を覗いて見てください。運営委員会の日程は下記の通りです。その他についてはお問合せ下さい。

※「委員」という言葉が堅苦しい感がありますので、「世話人」という言葉にしました。

### 直近の運営委員会日程

日	時間	場所
3月20日(金)	9:40~12:00	金沢区民活動センター (金沢区役所1階)

### 問合せ・連絡先

電話	785-1639 (今井)
電子メール	yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

## 「フォーラム KANAZAWA」参加見送り

例年3月に行われる「フォーラム KANAZAWA」は今年度参加を見送ることにしました。

## 継続会員の状況と新規会員募集

### 継続：112名、退会：14名、継続率：89%

2015年度への継続会員の手続は昨年12月初めに締め切りました。その結果、継続は112名（男性：98名、女性：14名）、退会は14名（男性：8名、女性：6名）となりました。全体の継続率は89%、男女別では男性：92%、女性：70%でした。

継続・退会の特徴は、入会1年で退会する人の割合が高いことです。2014年度の入会者は11名（男性：8名、女性：3名）でしたが、継続：7名（男性：6名、女性：1名）、退会：4名（男性：2名、女性：2名）で、1年目の継続率は64%、特に女性は33%でした。もうひとつは、年齢的に参加が難しくなり、やむなく退会を申し出られるケースです。

### 新規会員募集

募集期間：1月10日～3月10日

募集人数：10名程度

2015年度の新規会員募集は、1月10日から区民活動センターと各地区センターに募集チラシを配置し、ホームページにも掲載することで開始しました。募集人数は約10名としています。これは学習会で使用する地区センターなどの会場の定員の都合で、総会員数は120名程度を上限とせざるを得ないためです。

平均年齢の高まりと女性が少ないことから、若い方と女性会員の応募を期待しております。お近くにそのような方がおられましたら、是非とも応募をお勧め下さい。

## 事典編集委員会報告

### 第4回編集会議より

昨年11月22日（土）に第4回事典編集委員会を開き、討議した結果をご報告します。

下表「(改訂、追加)項目確定1」の通り、12箇所<sup>1</sup>の訂正が決定されました。アンダーラインの引いてある箇所が訂正部分です。

引き続き、151箇所<sup>2</sup>の検討に第5回編集

委員会から入ります。

本年の目標は、項目の訂正、項目の追加、項目の削除、付属資料の見直し、写真、絵図の検討です。

会員皆様のご協力をお願いするところです。

(改訂、追加)項目確定1

平成26年11月22日

No.	頁	項目	原文の字句	結論(修正)
1	1	青島石	5行目：初代金沢文庫長	昭和5年以降の金沢文庫は「 <u>県立</u> 」を入れる。初代 <u>県立</u> 金沢文庫長 となる。
2	7	伊丹氏	7行目：大坂の陣	「 <u>夏</u> 」を入れる。大坂 <u>夏</u> の陣 となる
3	19	小田原衆所領 役帳	9行目：龍源軒領	領の前に「(建長寺塔頭)」を入れる。龍源軒(建長寺塔頭)領 となる

4	33	鏑木清方	5行目：文化勲章受賞	受賞を「受章」にする。文化勲章受賞 となる
5	35	鎌倉攬勝考	2行目：刊。(注：2字重なる)	「刊」と「。」との重なりを離す(パソコン操作)。
6	38	祇園舟	5行目：小船	船を「舟」にする。小船 となる
7	40	享保十六年古 図	(読み)きょうほ	項目の「享保十六年古図」の享保は「きょうほう」と読む。「きょうほうじゅうろくねんこず」となる
8	59	柴台山	2行目：大部分	大部分を「一部」にする。現在は一部が となる
9	80	大休正念	1行目：浙江省	浙を「浙」にする。浙江省 となる
10	112	福石	3行目：ルビ、はらい	ルビのはらいを「はらえ」にする。ルビは、みそぎはらえ となる
11	114	藤原道長	2行目：初頭	初頭を「前半」にする。11世紀前半 となる
12	125	名語記	2行目：初代金沢文庫長	P1「青島石」と同じ。初代 <u>県立</u> 金沢文庫長とする

## 学習会

# 学習会の概要とアンケート結果

## 第5回 「古文書（古地図）から見た泥亀新田開発」

開催日：平成26年11月8日（土）

会場：能見台地区センター

講師：古文書を読む会代表 真田 雅行氏

出席：90名（ビジター1名） 会員出席率 71.4%

### 【概要】

泥亀新田の開発は永嶋家が9代にわたり約200年をかけた大事業である。

壊して海水が流入し、田地が陥没し汐入亡所（荒地）となる。

### 第1回の実況

古新田：初代永嶋祐伯（すけのり）、雅号は泥亀子。

寛文8年（1668）走川（現寺前）と平潟の2カ所に新田を開き「泥亀新田」と名付け一村を成す。

延宝3年（1675）検地（年貢割り当て）  
元禄16年（1703）武蔵、相模、安房、上総を襲った大地震（M8.2）の津波で堤が決

### 第2回の実況

金沢（内川）入江新田開発 6代目永嶋成郷（なりさと）

安永8年（1779）成郷が初代以来の干拓復興を目指し、再度瀬戸の入江埋立て開発を幕府に提出する。

天明6年（1786）初代の開発より18年後に完成、泥亀新田と名付けられる。

しかし、夏の洪水で新墾地が全部押し流される。

寛政3年（1791）江戸湾の高汐、津波により新田の堤防が全部流出し、田圃は元の荒地に戻る。

### **第3回の開発**

9代目永島忠篤、号は亀巢（きそう）

天保3年（1832）泥亀新田が幕府領から川越藩松平大和守の領地になり、新田の復興が忠篤に命じられた。

嘉永2年（1849）忠篤が泥亀新田を復旧完成させた。同4年平潟の塩田を2町余広げ、この成功により永島家は大富豪となる。

明治8年（1875）泥亀新田と入江新田を一村とし、泥亀新田村と称す。

明治38年（1905）金沢六浦塩田が廃止され、永島家は大打撃を受ける。

大正5年（1916）泥亀新田を博文館主の大橋新太郎に売却する。

今回のテーマは泥亀新田の200年にわたる開発を古文書ではなく、古地図や絵図を中心

に地形の変化に光をあてたものである。

江戸時代の地図も少なく資料の発掘も大変だったと思われるが、説明に使われたのは古地図、絵図から明治の絵葉書まで48枚、時系列でスクリーンに写しながら丁寧な説明がなされた。

泥亀新田の開発は地震、津波などの災害を乗り越えての難事業であった。

永島家が現在に残しているのは区役所のある泥亀の町名だけで、その功績については意外に知られていないのではなかいか。

永島家代々の墓は龍華寺にあるが、野島の路地には孫等の手による永島亀巢功德の碑がひっそりと建っている。その碑文にはこんなくだりがある（書き下し文）

～蓋し泥亀子業を初めしより亀巢翁に至るまで九世二百年なりき、中間には災変頻りにして仍って蹉跎万状なりしも、而も世々相ひ承けて其の志業を成せるは勤めたりと謂ふべき哉。～

正にその通りで、泥亀新田開発は金沢区民としては忘れてはいけない歴史である。

（伊達記）

**【アンケート結果】** 提出は約半数の46名。

たいへん良かった 32名。良かった 11名。普通 1名。つまらなかった 2名。

### **【コメント】**

- ・泥亀新田の開発の歴史を絵図等を中心に分かりやすく説明されたので、地形の変遷が理解できた（15）
- ・画像（スライド）を使った説明が非常に良かった（11）
- ・レジメ、写真資料が充実して分かりやすい（7）
- ・良く調べられた。池上家文書を探し出された熱意に頭が下がる（5）
- ・金沢の歴史がよく分かった。これをマッテいました（1）
- ・この地域の歴史は色々学習したが、今回はその集大成ともいうべきもので圧巻（1）
- ・大橋新太郎との関係が分かり、納得した（1）
- ・地図が分かりにくく、拡大機能を使用して説明して欲しい（1）など。
- ・また学習会運営については、大変よかったが、20名、良かったが18名だった。
- ・その中に、内容に興味が大。カラーにて資料をいれていただきたい（有料でも可、PCでも可）という意見があったのを付け加えておく。

**真田 雅行 氏**



## 「懐かしの映画」鑑賞録 No.17

「懐かしの映画を観る会」代表 佐藤 晃

平成 26 年度第 15 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014.11.10〉

ミスティック・リバー Mystic River

製作：2003年 米国映画

上映時間：138分

監督：クリント・イーストウッド

原作：デニス・ルヘイン

主演：ショーン・ペン、ティム・ロビンス、ケビン・ベーコン

その他：アカデミー賞 主演男優賞（ショーン・ペン） 助演男優賞（ティム・ロビンス）

（あらすじ）

ボストンのイーストバッキンガム地区。ジミー、デイク、ショーンの3人の少年たちが路上で遊んでいると、警官を装った誘拐犯が現れデイクだけを連れ去り、4日間監禁し、凌辱される。

25年後、ジミー（ショーン・ペン）は雑貨屋を経営している。デイク（ティム・ロビンス）は家族とともに、平穏な日々を送っている。ショーンは刑事となってこの地区を担当している。幼馴染みだった3人は、今は疎遠となっている。しかし、一つの大事件が3人を再び結びつけた。

ジミーの娘ケイティが遺体となって発見された。ショーンは相棒のホワイティとともに捜査の担当になった。事件のあった夜、デイク

は血まみれとなって家に帰り、驚いた妻のセレステが問い詰めると、強盗に襲われたので相手を殴り殺したと釈明した。セレステは夫がケイティ殺しの犯人ではないかと不安になり、隠しきれずに、ジミーに夫が犯人だと思っていると話した。デイクが犯人と確信したジミーは、復讐を果たすべく、デイクを呼び出す。デイクは少年に悪戯を仕掛けていた男を救うため男を殴り殺したため血まみれになったと言い訳するが、ショーンは納得せず、責めてイエスと言わせてしまう。ジミーはデイクを殺し、川に沈めた。一方、ショーンたちは殺人に使われた拳銃から犯人を割り出し、犯人逮捕に向かう……

(解 説)

アメリカの作家デニス・ルヘインの同名のミステリー小説をクリント・イーストウッドが監督業に徹して映画化した作品である。一緒に遊んでいた3人の少年の一人が誘拐され、監禁された事件から25年後、思いがけない事件で3人は再会する。被害者の父親のジミー、容疑者となったデイブ、捜査を担当するショーンと立場の異なる3人は対峙する。ショーン・ペン、ティム・ロビンス、ケビン・ベーコンの3人の実力派俳優の渾身の演技は観る者を圧倒する。それにしてもこの映画の結末は重く、暗い。クリント・イーストウッドはこの映画で何を訴えようとしたのだろうか。1992年に作られた

『許されざる者』で彼は「人間は善人と悪人に単純に分けられない」として、悪人の中の善、善人の中の悪を描いた。彼の人間を見る目はこの映画でも変わらない。密告したレイを殺し、その家族に16年間、毎月500ドルを送り続けるジミーの悪と善とは何か。人間とは単純に善と悪に二分化できないということをこの映画ではさらに深く描いている。ラストシーンでパレードを見ているジミーにショーンは指で作った拳銃で撃つ。「許されざる罪」を犯しながら法が及ばない罪にショーンは断罪したのである。

平成26年度第16回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014.11.24〉

マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙 The Iron Lady

製作：2011年 英国映画 上映時間：105分  
監督：フィリダ・ロイド  
主演：メリル・ストリープ、ジム・ブロードベント  
その他：アカデミー賞 主演女優賞（メリル・ストリープ）

(あらすじ)

食料雑貨商の家に生まれたマーガレット(成人後はメリル・ストリープ)は父が地元の名士であり、市長を務めたこともある政治家のため、早くから政治家を志している。初めての下院議員選挙では落選し、失望する彼女に事業家デニス・サッチャー(ジム・ブロードベント)は慰め、力付け、プロポーズする。政治家への野心を隠さないマーガレットをデニスは快く受け入れ、二人は結婚する。双子に恵まれ、幸せな家庭を築く一方、1959年、下院議員選挙に初当選し、1970年教育科学大臣を務め、政治家としての階段を昇り始める。1974年の選挙で、

保守党は敗北し、1975年党首選挙が行われた。次期党首最有力のジョセフ議員が舌禍事件で立候補を断念し、代わりに立ったマーガレットが対立候補のエドワード・ヒースを破り保守党党首に就任した。1979年の選挙で保守党は大勝し、選挙後、英国史上初の女性首相となった。

首相となってからのマーガレットは山積する課題と立ち向かい、夫や子供たちとの時間を犠牲にしてひとりで戦い続けた。1990年、人頭税を導入しようとして国民の反感を買い、欧州連合に対して懐疑的な考えを示す等で財界

の支持も失い、その年の党首選挙では規定の票を得られなかったため、自ら辞職を決め、党首の座を降りた。

現在のロンドン。夫デニスは今亡く。認知症も進み、夫の死も認識していない。娘のキャ

#### (解説)

英国初の女性の首相となり、保守的でしかも強硬な政治方針から“鉄の女”と呼ばれたマーガレット・サッチャーがフォークランド紛争など重大な局面で果たした役割と、人間的な苦悩を描くドラマである。映画は、政界引退後、認知症を患うマーガレットの実生活と、政治家としての彼女の歩んできた道を重ねながらマーガレットの半生を浮き彫りにする。すでに亡くなっている夫デニスを、幻覚として登場させる

ロール（オリヴィア・コールマン）が時折、訪れるが、母親の不可解な行動に戸惑っている。マーガレットはデニスの遺品を整理しながら。「あなたは幸せだった？」とつぶやくのだった。

ので分かりにくいのが、政治活動の陰に隠れた夫婦愛が強調されている。因みに、本映画は2011年に撮影されており、当時、マーガレットは存命中であった。しかし、2013年4月8日、脳卒中により死去した。享年87歳であった。マーガレットを演じたメリル・ストリープ（1949～）はアカデミー主演女優賞を獲得した。彼女にとって『ソフィーの選択』（1982）に次ぐ2回目の受賞である。

### 平成26年度第17回 鑑賞会

〈鑑賞日：2014.12.8〉

**ここに泉あり**

製作：1955年 中央映画 配給 松竹 上映時間：177分

監督：今井正

脚本：水木洋子

主演：岡田英次、岸恵子、小林桂樹、加東大介、三井弘次、東野英治郎

#### (あらすじ)

終戦直後、群馬県高崎市に創設された「市民フィルハーモニー」は、マネージャー井田（小林桂樹）の努力にもかかわらず、楽団員は苦しい生活を余儀なくされていた。楽団でただ一人の女性佐川かの子（岸恵子）は音楽学校を出たばかりのピアニストだが、高崎では腕が落ちるのを悩んでいた。新しく東京から参加したヴァイオリンでコンサートマスターの速水（岡田英次）は彼女を励ますが、速水自身も同じ悩みを抱えていた。楽団員の生活は苦しく、チンドン屋で生活を支えながら頑張っていたが、山奥の学校やハンセン病療養所に出かけて演奏し、喜ぶ人びとをみると苦勞も消え去るのだった。速水とかの子は結ばれて結婚するが、生活の苦しさは続いていた。

その頃、井田は東京から山田耕筰氏指揮の交

響楽団とピアニストの室井摩耶子を招いて合同演奏会を開いた。演奏会は大成功だったが、余りに大きな技術の差に楽団員一同は落胆する。しかも、生活の厳しさは増すばかりで、他人の楽器を質入れする楽団員もいたり、些細なことから喧嘩が始まり、団員の結束も弱まるばかりである。遂に会議で、楽団の解散が決定した。解散に反対する速水の提案で最期を飾る演奏会を利根の山奥の小学校で行うことになった。最後の演奏会だと思つくと団員の演奏も、司会の井田の解説も力が入った。お別れの歌では、オーケストラの伴奏で“赤とんぼ”を全員で合唱した。「赤とんぼ」を歌いながら、団員の姿が見えなくなるまで手を振って別れを惜しむ小学生の姿に、団員の心の中に大きな変化が生まれた……

(解説)

戦争直後、高崎市に生まれた市民オーケストラが、多くの困難を乗り越えて群馬交響楽団へと成長した実話をもとに、水木洋子が脚本を書き、今井正が監督したヒューマンドラマである。

物資も乏しく、生活に追われていた時代に、団員たちは、子どもや市民にクラシック音楽を届けたい一心、であらゆる困難を乗り越えて励んでいる。そのひたむきな姿が観客の胸を打つ。子どもたちとの触れ合い、農家の人たちとの交歓など感動的ないくつものエピソードが描か

れる。少女から野辺の花で作ったブーケを渡されるシーン、ハンセン病患者の施設を慰問するシーン、山奥の小学校での演奏会が終わって、“赤とんぼ”を歌いながらいつまでも別れを惜しんで手を振るシーンと一つ一つが忘れ難い印象を残す。

「高崎市民オーケストラ」は1963年「群馬交響楽団」と名称が改められ、日本の地方管弦楽団の草分け的存在として高崎市を本拠として活動を続けている。

## 「浮雲俳句会」抄録 No.28

「浮雲俳句会」代表 北野 清市

《 よい句・残る句 》(その1)

### 1 シンプルな句

俳句は、十七音という世界最短の詩。それだけに内容がシンプルでなければ、到底、十七音の中に収まりきれません。俳句は、シンプル・イズ・ザ・ベストです。引き算により単純化されたものが、一番よいのです。

#### 一月の川一月の谷の中 龍太

掲句は、他界された飯田龍太の代表作。作者は甲斐出身。飯田蛇笏の四男として出生。大卒後父蛇笏の跡を継いで、俳句の道一筋に専念。惜しまれながら生涯を閉じた。

厳寒の故郷の〈一月の谷に〉、川が流れている。〈一月〉〈一月〉のリフレインが鮮明です。しかし、その魅力は、何よりもシンプルにあります。

次に、自選の事例を五句挙げておきます。

#### 少年の蹀春の潮の中

〈蹀くるぶし〉を春になって、海水も暖かくなり、岸壁の最下段の〈春の潮の中〉に入れて、思案に耽る少年を描いたものです。

#### 麦秋やピカソの青に黄のゴッホ

〈麦秋〉は、麦の熟す初夏を表す季語。ピカソは青の時代。ゴッホは黄の時代が、それぞれを代表する時代。特にゴッホの黄の時代の代表作「種をまく人」は、黄色の麦畑と黄色の太陽が特徴です。

#### 一帆を沖に置きたる更衣

環境庁の省エネ政策の一環としての「クールビズ」のキャンペーンにタイアップして、6月早々、座敷に〈一帆を沖に置き〉ながら〈更衣〉の真っ最中です。

#### 下北が鉞のごと烏賊釣火

俯瞰すると青森の下北半島は、鉞(まさかり)のよう。三陸海岸に延々と〈烏賊釣り火〉が、無

数点在しており、筆舌に尽くし難い。

### 初糶や上目使ひのふぐの貌

東京の築地市場の〈初糶はつせり〉の景。築地は外国人の観光コースの目玉。ワンダフル・ワンダフルの連発です。

(以下 次号の《よい句・残る句》(その2)へ続く)

## 《15回金沢区民俳句大会吟行会への参加 H26年10月26日》

今回は、昨年に引き続き、吟行場所は長浜公園。句会場所は並木コミュニティハウスで実施。時期的には昨年と全くおなじであったが、今年は季節が進み、長浜公園界隈の銀杏並木もすっかり黄色になり、汽水池も晩秋の佇まいであっ

〔 秀作 〕

### 天賞

覗き口初鴨見るや年尾の忌 二祥

吟行句の中に忌日俳句を組み込んだ珍しい秀吟。高浜年尾の忌日が、丁度吟行会当日の10/26に合致していたのだ。長浜公園内の野鳥の観察ネットの〈覗き口〉から、〈初鴨〉を

た。

このような中であって、特筆すべきは、わが浮雲俳句会のメンバーの活躍であって、天地人賞の天賞と地賞を、また特選5句中4句を獲得したのである。

〈見るや〉、全く同じ日に当たる〈年尾の忌〉を想い浮かべたのである。

作者の近代俳句創始者グループの先人に対する畏敬の念がひしひしと伝わって来る一句である。

### 地賞

おんぶの子銀杏黄葉を見上げをり 勇平

当日の吟行における囁目吟の典型。晩秋に気温が下がってくると、落葉樹は赤や黄に色を変える。赤く染まる楓などは、葉の細胞液の中に花青素が出来るためであり、黄色に染まる銀杏などは、花青素が分解して、葉黄素になるから

である。

掲句の場合、おそらく、この銀杏並木の囁目吟であろう。〈おんぶの子〉が、少し前まで、青一色の銀杏並木が黄色に変わり、不思議そうに〈銀杏黄葉を見上げ〉ているのである。

〔 特選 〕

木の実独楽一人舞台のスピルかな 祥代  
秋の色すべてこの手に包み込む 和女  
魚はねる色鳥憩ふ汽水池 国眼

長浜の銀杏黄葉の街路かな (他の結社)  
黄落や英世の見遣る海遠し とも女

〔 秀作 〕

天賞

頼朝が馬を下げる馬入川 重九

鎌倉時代の回顧俳句。本年度の兼題の一つ河川俳句の4番バター。ご当地の「相模川（別名・馬入川）」を詠った佳句である。〈頼朝〉と馬。それに〈馬入川〉と馬のリフレインで〈相

模川〉を諷詠したところが素晴らしい。

一方、〈馬下げる〉＝（放牧の馬を冬場放し飼いの場所から下ろして厩舎に入れる）という珍しい季語の発見が抜群で、これにより、武将〈頼朝〉との太いコネクションが生まれている。

地賞

ふり向けば「枯葦のうた」相模川 和女

写実的でリアル、しかも、俳意の深い佳吟。中7を添削段階で見て、これは、森繁久弥で有名な「俺は河原の枯れすすき、同じお前も枯れすすき…」の「枯れすすき」の歌ではないかと思った。しかし、よく見ると〈枯葦のうた〉である。

西行法師の和歌にも登場している。さらに徳川吉宗の次男の俳諧にも、「枯葦の日に日に折れて流れけり」と詠われているではないか。

従って、掲句は、〈相模川〉の河原を散策中、誰かが、西行法師の歌か、ほかの和歌を口ずさむ声に、作者が驚いて、〈ふり向〉いたものと解釈した。その様子が、リアルに、連想される俳意の深い一句である。

そこで〈枯葦〉について調べた。すると〈枯葦〉は、万葉集でも数多く取り上げられており、

人賞

面構へまだ残りたり枯螳螂 一祝

〈枯螳螂〉の生態をよく捉えた秀吟。〈螳螂とうろう〉は鎌きりのこと。体長8cm。緑色または茶色で細長く、前脚は鎌型で虫を捕らえる。頭は逆三角形で眼は複眼で大きく、見るからに

気が強そうで、どんな敵にもかかってゆく。秋は交尾期で雌は雄を食べ、秋たけて産卵するが、泡の中にきちんと卵を並べている。

その眼光炯々とした逆三角形の〈面構へ〉は、まさに狐のように他を圧している。

〔 特選 〕

散紅葉海へ届けり相模川 三旦  
甲斐相模小春を繋ぐ相模川 十九  
村時雨乗せ相模行く馬入川 一馬  
厄除けの大社に秘そと枯螳螂 勇平

悲しげな声弔せり冬の鹿 とも女  
冬空を独り占めせし鶯かな 祥代  
菅笠に落葉ひらひら大手門 国眼

〔 秀作 〕

天賞

凶鑑見て兎等「かはいい」と木菟の耳 一馬

対象を詠む視野の広さに感心する高吟。〈木菟みみずく〉日本のみみずくは6種類。このうち最もよく見られるのが、「大木葉木菟おおこのはずく」で、これが一番多く、俗にミミズクといわれている。そのうえ、耳の羽がウサギに

よく似ており、夜行性で小鳥や鼠を捕食する。

この「大木葉木菟」の〈凶鑑〉を〈見て〉〈兎等〉が、〈かはいい〉と云ったのである。確かに、〈木菟（ずく）の耳〉は、兎の耳のようで非常に可愛い。

地賞

侘助や白き鈴の音こぼれをり 和女

次元の異なる写生句。〈侘助わびすけ〉の花の由来は、閑寂を楽しむ「侘」と、芸道に打ち込む「好」（数奇）とが、複合したものと思はれる。日本古来の藪椿よりも、中国産の唐椿に近い花。花は、一重で白または淡紅色の小輪で茶花向きである。

普通、花を詠む場合、その咲いた状態や周囲の状況を詠むのが一般的である。しかし、掲句は、見る側面でなく、聴く側面から捉え、その「音」を中心に、〈音こぼれをり〉と表現を展開している。作者の鋭い感性に脱帽した一句である。

人賞

鐘なるやそつと紅さす雪女 一紀

季節と時期を巧みに捉えた妖怪俳句。〈雪女〉は雪の降るときに出るといふ雪の精。ゆきの夜に白い姿でさまよい歩くので、雪女郎・雪娘などと云う。

因みに、季節的には目下雪の季節であり、時期的には、世の中が「妖怪ブーム」で、いろいろな妖怪グッズは勿論、“妖怪ウオッチ”という映画まで出回っているタイミングでの一句であるところに注目したい。

〔 特選 〕

木菟の闇に張りつく高野山 勇平  
木菟（ずく）の声途切れ途切れの山家かな とも女  
木菟の耳闇の奥へとかたぶけり 国眼  
雑音に羽角は貸さじ五郎助 十九

山小屋に五郎助たづねきたりけり 一幸  
木菟の眼光炯々闇深し 祥代  
福求め小さき熊手を飾りけり 好童  
牡蠣小屋の主人広島訛りかな 重九

## 日蓮聖人ゆかりの寺を訪ねる

「寺社を巡る会」 鈴田 祥代

秋深し日蓮偲ぶ身延山

10月30日、「寺社を巡る会」の特別バス探訪は身延山の裾野にある上澤寺と身延山久遠

寺を訪ねた。

途中、秋麗右に左に富士の山

と車窓から美しい富士山が出迎えてくれた。まずは法喜山上澤寺へ。

文永11年(1274)、日蓮が身延へ入山当時、上澤寺は真言密教の大道場であった。また、小室山(鵜沢)には同じく真言宗で恵朝阿闍梨善智法印がいて日蓮に法論を挑んだが敗れてしまい、これを恨み亡き者にしようと考え上澤寺の住職法喜阿闍梨と謀り毒を潜ませた萩餅を作り身延の西谷の草庵に日蓮を訪れこれを献上した。日蓮は何げなくそばに現れた白い犬にこの餅を与えたところ白犬は忍ち苦悶してついにその場に斃れてしまった。

恵朝と法喜はこのありさまを目にし、日蓮の威徳と法華経の利生を悟り自分の邪心を深く懺悔し謝罪した。

二人は許されて日蓮の弟子となり、恵朝は日伝の名を授けられ小室山の開祖となり、また法喜は日受と名づけられ上澤寺の開祖となった。一方、身代わりとなった白犬を日蓮は毒消しの秘妙符を与え再び生きかえらせた。やがて寿命のつきた白犬は上澤寺の境内に手厚く葬られた。日蓮はこの白犬をあわれみて、手にしていた銀杏の杖をその塚の上に墓標として建てた。不思議にもその杖はいつしか根が生え枝を伸ばして大樹となった。

また、この銀杏の木は葉の表に実がつくという珍しいもので「お葉つき銀杏」として史蹟名勝天然記念物となっている。

なお、この木は枝がみな下に垂れさがっているところから「さかさいちょう」とも呼ばれ、葉は消毒の秘妙符となり「毒消しいちょう」ともいわれている。

さらにこの銀杏の実はずべて犬の牙の形をしており、「壺木いちょう」として有名である。ここで「延山膏」という外傷にはすべてよしというのを買った。お友達に差し上げたところ、ちょうどブヨに刺されたところで足が練馬大根のようになっていたが二日ほどで、もとの足に戻っていた。

効き目大いにあり。

## 金色に輝く犬の大銀杏

### 垂れたる「お葉つき銀杏」上澤寺

いざ、身延山妙法華院久遠寺へ。

三門では、六浦の上行寺の開基である荒井平次郎(のちの日荷上人)が称名寺の和尚さんと仁王様を賭けた碁をして勝ち、一晩で身延山へ運んだといわれている仁王様(実際は上行寺の前身の金勝寺の仁王)が睨みをきかしている。

三門を潜ると「南無妙法蓮華経」7文字を40回プラス1回の段数の足幅の高い修業の287段の階段(菩提梯)が待っていた。バスは本堂すぐ脇の駐車場まで行ってくれるが、半数近くの方がこれに挑む。

当時、身延山は甲斐国波木井郷・南部実長の領地であった。三度幕府を諫めながら、受け入れられなかった日蓮は「三度聞き入れられずば山林に身をかくせ」との古事に従い、実長の招きによって、文永11年(1272)入山し、草庵を建てた。以来、在山9ヶ年の間、日蓮は身延山から一步も外に出なかった。弘安5年(1282)、病氣療養のため、また両親の墓参のため、常陸国へ向けて出立した。しかし、その途上、武蔵国池上において61歳の生涯を閉じた。

「いづくにて死に候とも墓をば身延の沢にさせ候べく候」との遺言により、この身延山に祀られた。

久遠寺では若い修行僧が案内してくれた。本堂、五重塔、祖師堂、御真骨堂、報恩閣などさすが日蓮宗の総本山であるだけに立派な諸

堂であった。日蓮は小町説法、立正安国論献上、松葉ヶ谷法難、龍ノ口法難など鎌倉での布教は困難を極めたとの説明があった。我々寺社巡りのメンバーは鎌倉寺社巡りの際、それぞれ訪ね歩いているので親しくお話が聞けた。また2年前のバス探訪では、日蓮の誕生地千葉県鴨川市天津小湊町及び日蓮が出家を果たした清澄寺



身延山久遠寺 山門

を訪ねた。

少々ながら日蓮のことが理解できたのでは 秋の山抱かれ眠る日蓮様  
ないでしょうか。

四方染し桜紅葉の身延山

秋澄みて「南無妙法蓮華經」木霊する

## 「ふれあいの道歩こう会」定例会概要 No.8

「ふれあいの道歩こう会」代表 小俣 悦男

実施日：平成 26 年 11 月 20 日(木) 曇り時々晴れ

コース等：歩行距離 約 8km 歩行時間 4 時間 20 分 参加者：16 名

コース所在地：茨城県つくば市

ご存知ですか奇岩巨石群：筑波山山頂への登山ルートは 10 コースをこえる。今回の「おたつ石コース」は豪快な弁慶さえ、頭上からの岩が落ちてくるのではないかと 7 度も後ずさりした、と伝えられる「弁慶の七戻り」はもともと聖と俗を分ける石門。母の胎内をイメージした「母の胎内くぐり」やその形から、出船入り船、北斗石、屏風岩、大仏岩、ガマ石などと名付けられた奇岩巨石が目を楽しませてくれた。また、山頂から眼下に広がる関東平野の眺めの素晴らしさと女体山から御幸ヶ原にかけてのブナやミズナラの林は見事であった。

筑波山：日本百名山の一つ。二つの峰で聳え立つ独特の山容は、古くから、「西の富士・東の筑波」と称され、日本最古の和歌集、万葉集には筑波山を詠んだ歌が多くおさめられている。双峰東側の頂が女体山で標高 877m、西側の頂が男体山で標高 871m。独立峰ではなく、阿武隈山地の最南端。なお、最近の計測で女体山は東日本大震災(平成 23 年 3 月 11 日)の影響を受け 1m 隆起したことが判明、標高は 876m から 877m に改められた。

往路：つくばエクスプレス 秋葉原駅発 7:00(快速) ⇒ つくば駅着 7:45 関東鉄道バス  
つくば駅発 8:30 ⇒ つつじヶ丘着 9:20

コースタイム：つつじヶ丘発 9:50 ⇒ 11:40 着女体山発 11:50 ⇒ 12:00 御幸ヶ原着(昼食)、男体山登頂後御幸ヶ原発 13:00 ⇒ 14:00 中ノ茶屋跡着(オレンジタイム) ⇒ 15:00 筑波山神社バスセンター着

帰路：筑波山神社バスセンター発 15:10 ⇒ つくば駅着 15:50 高速バス、つくば 駅発 16:00 ⇒ 浅草駅着 18:00



女体山山頂からの眺望



弁慶の七戻り

筑波山奇岩彩る冬紅葉  
一杣

## 独自コース 21 番「岩殿山(634m)」 (通算 104 回)

実施日：平成 26 年 12 月 18 日(木) 天候：晴れ

コース等： 歩行距離 約 7km 歩行時間 5 時間 00 分 参加者：17 名

コース所在地：山梨県大月市

**コース解説：**岩殿山はスカイツリーと同じ高さの 634 メートル。スタートの大月駅の標高が 360m なので標高差 274m。コースは大月駅から丸山公園、城門跡などを経て、約 1 時間 20 分で山頂へ。山頂からの富士山の眺めは絶景であった。山頂から少し戻り指導標のある分岐点を西へ進むと約 30 分で林間コースと岩壁コースの分岐点へ。岩壁コースは最初の岩壁、次に断崖絶壁を 5m トラバース。2 つ目の岩壁をよじ登り兜岩の頂上へ。天神山頂上付近で昼食後、30 分ほど進むと足がすくむ程の稚児落としに着く。稚児落としから約 1 時間 30 分で大月駅へ。

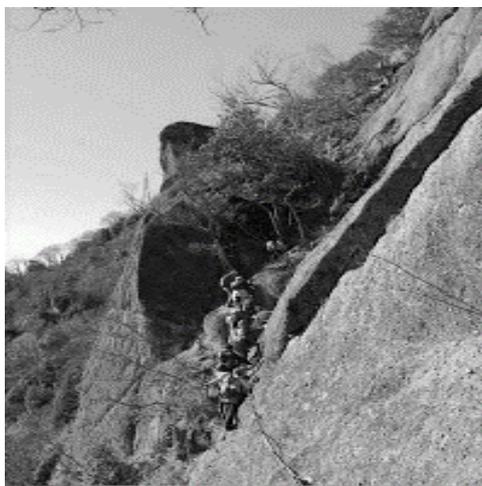
**ご存知ですか、**①**岩殿山**には大同元年(860)開創と伝わる天台宗寺院の円通寺があった。13 世紀頃には天台宗系聖護院末の修験場として栄え、戦国時代に甲斐武田氏の譜代家老小山田信茂の支配する岩殿城があった。岩殿城は急峻にして険しい断崖をめぐらし攻めにくく守りやすい戦国時代の難攻不落の名城。②**稚児落とし**。岩殿城落城の際、この大岸壁に来た時に稚児が突然泣き出し、追手に気づかれそうになった。母親はあやしんだり乳房を含ませたりしたが泣きやまず稚児を岩壁の上から落とし雁ヶ腹摺り山方面に逃げた、と伝えられている場所。

現地集合、中央本線 大月駅 9:00 現地解散 15:00

往路： 横浜発 6:32 ⇒ 八王子発 7:39 ⇒ 高尾発 7:48 ⇒ 大月着 8:26

コースタイム：大月駅発 9:00 ⇒ 丸山公園発 (集合写真撮影 15 分休憩) 9:50 ⇒ 岩殿山頂上着 10:30 ⇒ 築坂峠着 11:00 ⇒ 天神山発 (昼食 30 分休憩) 12:40 ⇒ 稚児落とし 13:10 発 ⇒ 浅利川のほとり (コーヒータイム 15 分休憩) 発 14:15 ⇒ 大月駅着 14:50

帰路： 大月発 15:19 ⇒ 横浜着 17:20



大岸壁の鎖場



稚児落とし

「稚児落とし」「哀れなきこのび凍てる山」一検

## 「古文書を読む会」からのたより (5)

「古文書を読む会」代表 真田 雅行

### 桜田門外の変

周知の通り、この変は江戸城桜田門外で万延元年（1860）3月3日（旧暦）、水戸脱藩浪士達等尊王攘夷派18人が登城途中の大老井伊直弼を襲撃し暗殺した事件である。

この事件は直接的には安政5年（1858）に「日米修好通商条約」と「将軍継嗣問題」で井伊直弼が開国と伝統維持路線（徳川家茂を14代将軍に）を強行した事により起った。

この背景には急進尊攘派の水戸・薩摩藩士が攘夷実行の勅諭を出すよう朝廷に迫り、孝明天皇も幕府の曖昧な態度に業を煮やして、急進派公家に命じ「戊午の密勅」（ぼごのみっちょく）を幕府ではなく直接水戸藩宛に出したことに井伊直弼が激怒し、彼は水戸藩に密勅返納を迫ると共に、これを契機に尊王攘夷派を粛清・弾圧した「安政の大獄」に遠因がある。

密勅の骨子は朝廷の許可を得ない条約の違勅調印と一ツ橋派大名処罰を責めるものであった。

これに激昂した水戸の急進派浪士達が井伊大老暗殺を決意し実行したのがこの事件である。

大老暗殺により幕府は急速に弱体化し、朝廷との力関係が逆転して、日本は風雲急を告げる幕末の激動の時代へと進んで行く。その過程で長州等の過激攘夷派が中・下級急進公家に接近し、朝廷を牛耳っていく。

ここで不思議なことは尊王と攘夷が何故結びついたのか、ということである。

本来この二つは全く別の概念である。皇室を尊敬することと、外国を撃退することとは無関係の筈である。更に不思議なのは、明治維新を成し遂げたのは幕末まで尊王攘夷派であった薩摩・長州を中心とする勢力であり、それが政権掌握すると直ちに開国派に転じたことである。

薩摩・長州勢力は最終的には討幕派になった

が、多分維新の過程で攘夷は不可能、と悟ったからであろう。

維新後政府中枢の一人確か井上馨（尊攘派）だったかが江戸時代末期の尊攘派の攘夷の主張について、「あの時はあゝでなくてはならなかったんだ」といったことは興味深い。

孝明天皇は幕府との平和共存を望んでおられたが、外国との交易は神国日本を汚し、先祖に対し申し訳が立たない、といわれたことからみて、おそらく天皇自身は海を見たことはなかったのではなかろうか。

井伊直弼は桜田門外の変で唯一襲撃に参加した薩摩の浪士有村次左衛門により首を討ち取られ、次左衛門は大老の首を太刀に刺して、重症のまゝ引き揚げの途中、同じく重症の彦根藩士に背中から切り付けられ、最後に辰ノ口の辻番所脇で自刃した。井伊の首は辻番所から和田倉門近くの遠藤但馬守屋敷（現在のパレスホテル辺）に保管され、後に彦根藩に引き渡された。

問題はその後の幕府と彦根藩の対応である。

幕府は大老暗殺で威信が地に落ちること、水戸藩と彦根藩が戦闘になる事を懸念し、彦根藩に対し死を伏せ、病气とするよう要請した。彦根藩も跡継ぎが未定であることや藩取潰しを避けるため、頭部怪我として届け出た。つまり幕府も彦根藩もあくまで井伊大老の死を隠し、彦根藩が取潰しになるのを避けようとしたのである。更に死体を縫い合わせた上、幕府は将軍の使者を藩邸に遣わし、病气見舞として味噌漬の鯛まで送っている。幕府の狼狽ぶりがうかがわれる。

併し世上では大老が殺害されたという説は広く流れており、遂に3月19日彦根藩は大老の死を公表し、家督相続も決まり35万石を維持出来た。（その後一部減石）

大老の遺体は当時の彦根藩飛び地の世田谷

村の豪徳寺に葬られた。46歳だった。

以下は筆者の私見である。

日本は特に飛鳥・奈良時代以降皇室を中心とした体制が続き、鎌倉時代以来朝廷に代わり武家による統治（一時後醍醐天皇の建武中興を除く）が続いたものの、皇室は今日迄国民の精神的支柱としての機能と権威を維持してきた。

鎌倉時代に起きた「元寇」で北條時宗が蒙古軍を退けたが、それ以来日本は「神国」であり、台風も神風が吹いたとの意識が自然に根付いていったようである。これによって日本は海に囲まれているから外国が来ても海が守ってくれているとの意識が江戸時代中盤まではあったと思われる。

江戸時代は徳川家の維持・安泰が全てに優先した時代であり、初代家康の定めたことは絶対に守らねばならなかった。幕藩体制、士農工商の身分制度（米中心の支配体制、貴穀賤金による商業・貨幣経済の軽視）、鎖国（特に3代家光以降出国・入国禁止）とキリスト教の禁止、貿易の原則禁止（5百石積み以上の船建造禁止と帆柱1本の強制、但し江戸中期以降北前船や

樽廻船・菱垣廻船には千石前後建造まで許容。千石船（今の7・80トン～100トン）などにより、時代の経過と共にその矛盾が内部肥大増長し、諸改革も功を奏さず、遂に爆発寸前にまで立ち至ったのがちょうど幕末の頃であったのであろう。

片や江戸時代はほぼ内戦もなくなり、平和の時代が続き、日本独自の文化の花が咲いたが、英・仏・ロシア・アメリカが海を渡って日本に迫ってきていた。

端的に言えば、江戸時代の封建制が世界史の動きにあわなくなってきた、ということであろう。

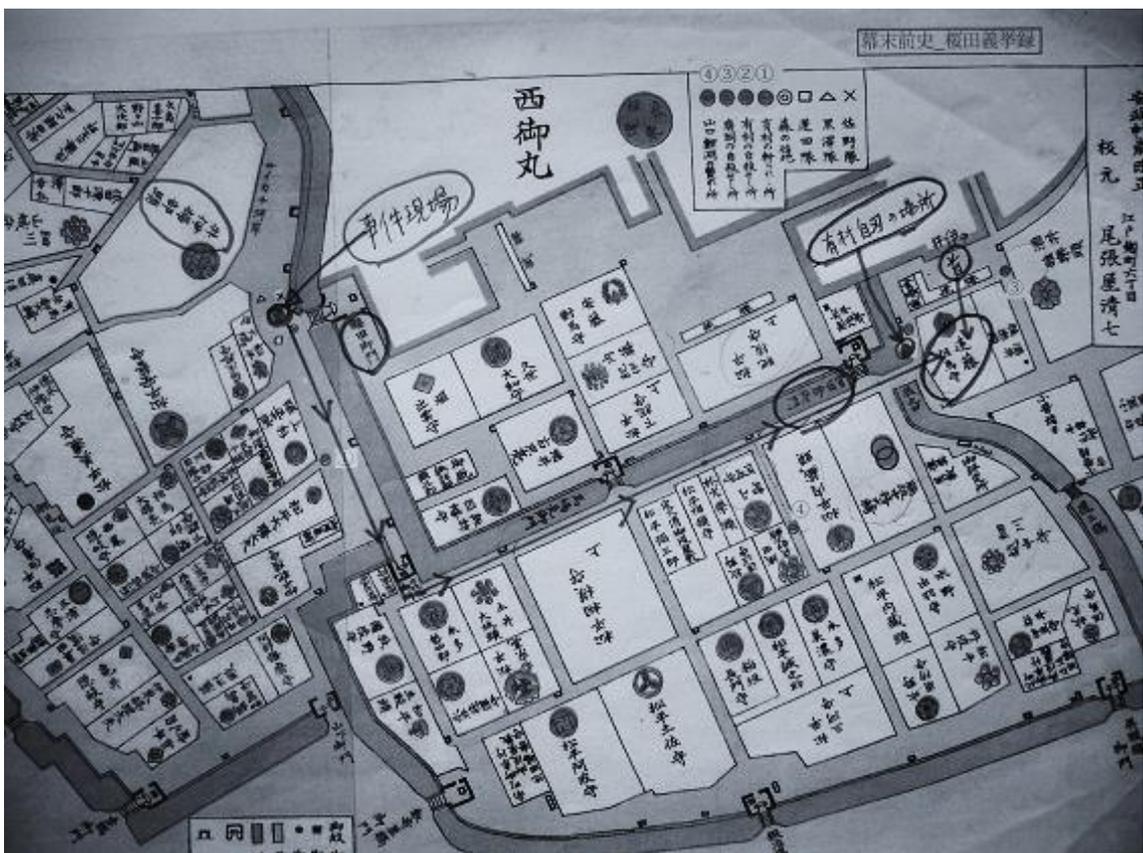
これらを考えてみると、この桜田門外の変はその後の日本成立にも多大の影響を与えた大事件だったといえる。

以下に「討入り地図」及びその際に浪士が懐に所持していた「斬奸趣意書」を披露して参考に供したい。

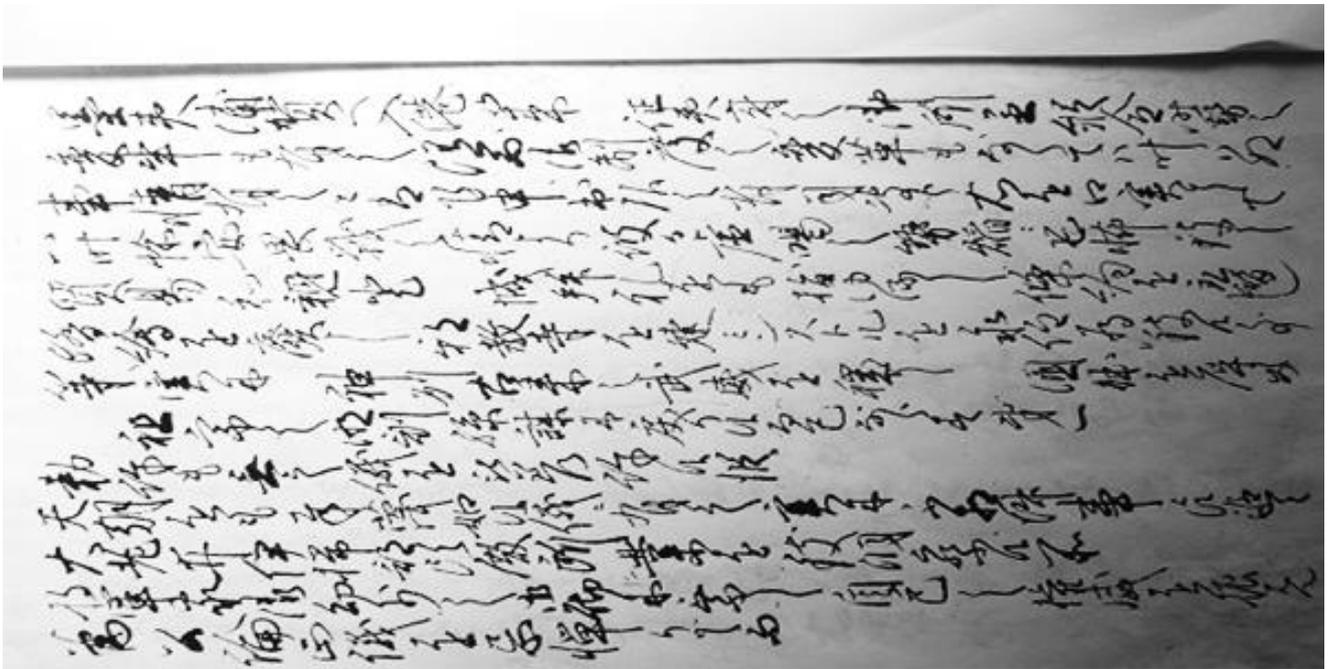
- (1) 桜田門外討ち入り現場地図
- (2) 浪士所持の「斬奸趣意書」

同 積文

(1) 江戸城桜田門外 討入り現場地図



(2)「浪士所持の斬奸趣意書」(一部)及び釈文



桜田門外之變

(斬奸趣意書)

(波山書 貝塚家文書)

里夷補質へ入港以來、任夷府之御所儀、疑令時勢之變事も有之、隨而御製度之變事もなくハ叶ハぬ事情有之とは乍申、出頭之有司専ら右を口裏として、一時檢(檢方)安民戦之情より、俄か虚唱(虚力)之勢始ニ恐怖致し、貿易・和親・豊城・拝札をも指ゆるし、條約を取替し、踏絵を廢し邪教寺を建、ミンストル永住為政候事等、實に、神州古來之武威を穢し、國体を辱しめ、祖宗之明訓保訓にもとり候由ならず、第一

勅許願之儀を被差許候段

天朝をも奉養和備儀ニ有之、實に不相濟事ニ候、道々大老并伊掃部職殿所業を致刺察候所、得軍家御幼少之御體に乘し、自己之權威を振はん為、公論正儀を忌憚り候而

天朝、公迎之御為格を深く存人候御方々、御禮藩を初め公卿衆・大名・御旗本ニ不限謹言いたし、あるいは洪範、成禁綱等被仰付候様設計候儀、異狀跋扈不容易朝と申、内憂外患逐日差迫り候時勢ニ付、恐多くも被痛

宸標、御国内治平公武御合体弥長久之基を被為建、外夷之侮を不受様被遊度との

取違に被為有、公迎之御為

勅書御下被遊候狀に奉伺候所、違背仕、尚又諸大夫始有志之人々を召補、無実を羅織し、嚴重所置被致、甚敷ニ至り候而は

三公御落飾御儀、聖田口親王をも奉幽閉候而、勿体なくも

天子御讓位之事比奉願候件々、奸曲無所不至

矣、**天下之巨賊にあらずや**、右罪狀之儀ハ委曲別紙御候通り、斯る暴横之奸賊其傷差置候而は、益

公迎之御政体を亂り、夷狄之大害を表し候儀眼前にて、實に天下之安危存亡ニ控り候事とも痛憤難那止、哀節えも及差聞、**今般**

天降を加懐心傳而令斬賊、勿論

公迎江御對中上候儀は毛誹毀之、何卒此上聖明之勅意ニ御奉答

公迎之御政事正道に御復し、專

皇國興・正誼明道、天下万民をして富強之安に所

せしめ給ハん事希ふのみ、聊獨國報恩之誠忠を

表し、伏而天地神人之靈賢を奉仰也

(以下別紙 省略)

\*以上は平成 23 年 7 月から 12 月まで 6 回にわたって読んだものです。

前回の Ctrl キーに続いて“Windows” キー、“Shift” キーと“Alt” キーを取り上げます。これら特殊キーと特定のキーと一緒に押すことのできる操作について説明します。

各項目の【 】内の文字・記号がキーの名称を表します。

## 1. Windows 全般の操作中

### 1.1 “Windows” キー（【Win】で表示）

このキーは、キーボードの最下段の左側にあります。Windows の旗のマークです。

【Win】+【D】：どんな操作をしている時でも“Windows” キーと“D” キーと一緒に押すと、全てのファイル、ウィンドウが最小化され、デスクトップが表示される。デスクトップに置いたファイルを見たいときに便利。

【Win】+【Home】：複数のウィンドウを開いている時に“Windows” キーと“Home” キーと一緒に押すと、選択しているウィンドウ以外を最小化する。もう一度この操作をすると元に戻る。

【Win】+【↑】：開いているウィンドウを最大化する。

【Win】+【→】：開いているウィンドウを画面の右半分に配置する。

【Win】+【←】：開いているウィンドウを画面の左半分に配置する。

【Win】+【↓】：上の4つの操作の後でこのキーを押すと元に戻る。

【Win】+【数字】キー：画面下端のタスクバーにピン留めしてアイコンが表示されたソフトが起動する。左側のアイコンから1, 2, 3, …のキーで指定する。

【Win】+【L】：このキーを押すとパソコンをロックする。Lock の【L】と覚えるとよい。

【Win】+【E】：この操作で、「コンピュータ」を開く。Explore の【E】と覚えるとよい。

【Win】+【F】：この操作で、ファイル検索画面が開く。File の【F】と覚えるとよい。

### 1.2 “Alt” キー（【Alt】で表示）

このキーは、キーボードの最下段の左側で Windows キーの右隣にあります。

【Alt】+【F4】：この操作で、開いているソフトやウィンドウを閉じることができる。

### 1.3 “Shift” キー（【Shift】で表示）

このキーは、キーボードの下2段目の左端と右端の2カ所にあります。

【Shift】+【Ctrl】+【Esc】：このキー操作で、コンピュータ上で実行されているプログラム等を表示するタスクマネージャが開く。

## 2. ファイル操作の Explore 使用中

【Alt】+【Enter】：ファイルやフォルダを選択してこのキー操作をすると、当該ファイルやフォルダのプロパティを表示する。

【Alt】+【↑】：ファイルやフォルダの操作しているときにこのキーを押すと一つ上のフォルダに移動する。

【Alt】+【←】：選択したフォルダを開く。

【Alt】+【→】：直前のフォルダに戻る。

【Shift】+【クリック】：最初のファイルやフォルダを選択してから、最後のファイルやフォルダの所でこの操作をすると、連続して選択される。

【Shift】+【Delete】：ファイルやフォルダを選択してこの操作をすると、ゴミ箱に入れずに完全削除する。ゴミ箱から復活することができないので要注意。

【Shift】+【F10】：ファイルやフォルダに対する右クリックメニューが開く。

## 3. ネット検索の Internet Explore 使用中

【Alt】+【→】：次のページへ進む。

【Alt】+【←】：1つ前のページに戻る。

【Shift】+【Ctrl】+【Tab】：1つ左のタブが開く。

【Shift】+【Ctrl】+【T】：一度閉じたタブを再表示する。

## 弁才天と宇賀神

熊谷 哲

弁才天について総合的に説明した後に宇賀神の出現などに付いて述べる。

### ○弁才天

弁才天は印度の「サラスヴァティー」という河の神であったが、さらに女神ヴァーチと結合し、弁舌・学問・音楽・豊穡・戦闘などの功德を備えた神になった。仏教に取り入れられてからもその功德は引き継がれた。仏教では天部に属し、妙音天・大弁才功德天あるいは弁才天、省略して弁天などと訳された。日本での弁才天信仰は奈良時代に始まるが、吉祥天などと対となって祀られていたとされる。

### 像形とご利益

仏典に説かれる弁才天には2種類ある。

①妙音天と呼ばれ、上半身裸で二臂、琵琶を弾く姿である。作例は少ないが、鎌倉鶴岡八幡宮の坐像(裸形着装像・像高98cm・重要文化財)が有名。江ノ島神社にも祀られている。音楽神・福德神として現在でも尊崇されている。



鶴岡八幡宮の弁才天坐像

②もう一つの弁才天は八臂で、斧・剣・弓・羅索などの武具類を持つ。戦陣や諍い・病気の苦しみなどの災いを払ってくれるという功德があるとされた。鎌倉時代に宇賀神の誕生に伴い、宇賀弁才天に変容し、功德に財富・豊穡などが加わり、財福・福德の神として弁財天とも称され、民間の信仰が盛んになった。現在の七福神の弁財天はこの神である。

### ○宇賀神

宇賀神は梵語の宇迦耶(うかや、白蛇)からの呼称とする説もあるが、日本神話に登場する宇迦之御魂神(うかのみたまのかみ)に由来するというのが一般的な見方であった。

宇迦之御魂神は古事記によれば須佐之男命と大山津見神の女(むすめ)の神大市比賣との間に生まれた神で、「食物の御魂の神」。日本書紀では倉稻魂とある。各地の宇賀神社の祭神と伏見稻荷大社を中心とする稻荷信仰の祭神はこの神である。然し叡山で宇賀神が誕生してからは弁才天と同体とされ、宇賀弁才天となる。

### 宇賀神の誕生

鎌倉時代に叡山で創作された経典『仏説最勝国宇賀耶頓得如意宝珠陀羅尼經』など弁天五部經(何れも印度から伝来した以降作成された経典で“偽經”という)に宇賀神の出現から修法までが説かれている。その一部から出現の様子などを紹介する。

ある時竹林精舎で、釈迦仏が大悲三昧に入り大光明が十方世界を照らすことがあった。畏れおののく大衆らを前に金剛手菩薩は、「宇賀神将」の因縁譚を語り出す。「今、この会中に「宇賀神将」という名の一人の神王がいる。この者は無量劫の昔から大慈悲を施してきた。汝らは

速やかに宇賀神王法を修得するように」。するとこの時、宇賀神王が忽然と姿を現す。

「其の形天女の如し。頂上に宝冠あり。冠中に白蛇あり。其の蛇の面は老人の如くにして眉白し。云々」とある。まさに宇賀弁才天の出現である。

次いでこの宇賀弁才天の持物についても詳しく述べる。更に釈迦は、「自分は貧しかったが、宇賀神王を受持するとたちまち「大福長者」となった」と説き、宇賀神王の供養の次第が示される。

### 宇賀弁才天

叡山で誕生した「宇賀弁才天」の像形は、上述の「弁才天」の項の②八臂弁才天の頭上に、宇賀神という福德の神(とぐろを巻いた白蛇の上に眉の白い老人の頭部を置く)を乗せる。持物に宝珠や鑰(やく、鍵)が加わり、左手に鉾・輪宝・宝弓・宝珠、右手に剣・棒・鑰・宝箭を持つ。近江の竹生島・巖島・江ノ島に祀られているのはこの宇賀弁才天で、日本三弁才天という。瀬戸神社の摂社の琵琶島神社に祀られている弁才天は竹生島の弁才天を北条政子が勧請したと云われるが立像なので「立身弁才天」(像高36.3cm)ともいう。金沢区内には宝樹院(像高14.5cm)、禅林寺(像高13.7cm)、東光禅寺(像高27.5cm)、称名寺(像高7.4cm)などに祀られている。



称名寺の宇賀神像



宝樹院の宇賀弁財天像

### 宇賀神という苗字

多くはないが宇賀神を姓としている方々がいる。確かなことは不詳のようではあるが、姓氏や家系などの辞典によれば、藤原北家の流れで、古くは信仰に関係が深かったという。鹿沼市から宇都宮市にかけて多いといわれる。

### 参考文献

- ・『仏教大辞典』昭和3年3月
- ・『仏教語大辞典』昭和50年2月
- ・『広説仏教語大辞典』平成13年6月
- ・『目で見る仏教事典』2008年
- ・『日本の神仏の事典』2001年7月
- ・『神道事典』平成6年7月
- ・『神道大辞典』昭和12年7月
- ・伊藤 聡『神道とは何か―神と仏の日本史』  
2012年4月
- ・『国史大辞典』昭和55年7月平成3年
- ・山本ひろ子『異神』1998年3月
- ・金沢文庫展示図録『弁才天』平成19年2月
- ・金沢文庫展示図録『瀬戸神社』  
平成25年4月
- ・『鎌倉国宝館 収蔵名品目録』平成23年6月
- ・『姓氏家系大辞典』昭和38年11月
- ・『日本姓氏大辞典』昭和60年3月
- ・『名字大辞典』2011年9月

## 開発と保存

== 尾瀬と称名寺 ==

相川 勲

最近、昔買って1度読んだきりの本を読み返したりしている。今年7月「ふれあいの道歩こう会」分科会で尾瀬に行く予定があるので「尾瀬に死す」平野長靖著（注1）を捜し出して読んだ。その一部に尾瀬の開発問題がある。尾瀬沼の東側の三平峠を切り開いて車道を通し群馬県と福島県を結んで産業道路兼観光道路とすることや尾瀬ヶ原を発電用ダムにすることである。この部分を読んで数年前に読んだ称名寺裏山開発のことを思い出した。称名寺東側の日向山を切り崩して自動車道を造り称名寺裏から金沢山・稲荷山一帯を宅地造成することである。規模こそ違え東側に道路を造り周辺開発をすることでよく似ているなどと思った。年代など調べようとしたが称名寺開発関係の載っていた本の題名も何も分からず日が過ぎてしまった。昨年12月に横浜市の図書館で見つけ、暮れに借りることが出来た。

### 「史跡保存の軌跡 その苦闘の記録」

平野邦雄著（注2）である。

自然保護と史跡保存、全国区と地方区の違いはあっても著者が共に「平野」姓である偶然、

時代も昭和40年前後の高度成長期である。彼らの奮闘が無ければ今の尾瀬は消えていたでしょう。又、称名寺の裏は個人住宅が建ち並び北条実時の墓地は住宅の中の小公園になっていたでしょう。

私自身は尾瀬については新聞などで情報を得、関心を持っていました。環境庁が発足し初代の大石武一長官が現場視察し、開発中止を決定したときは正義の味方が表れたように思ったものです。一方称名寺に関しては地元にながら称名寺裏山開発問題があることをかすかに耳にした覚えはあるものの全然関心を抱かず、平野邦雄氏の本を読むまでは具体的な計画は何も知らなかった。“わ”の会の会員の中には実際に保全運動に参加された方もおられると思いますし、金沢文庫の紀要「金沢文庫研究」にも詳細な経緯が載っていると思います。知らなかった方もおられると思いますので2人の著書の抜書きを中心に高度成長期の日本の一断面として紹介しておきたいと思います。

### 1. 尾瀬の場合

- \* 大正5年(1916) 東京電力(株)の前身の会社が私有地であった尾瀬の群馬県側の土地を取得。東電設立の昭和26年(1951)東電が引継ぐ。現在は尾瀬国立公園の4割、特別保護区の7割の土地を東電が所有している。
- \* 昭和9年(1934) 日光国立公園の一部として指定。
- \* 昭和15年(1940) 尾瀬湖畔を通る県道沼田・田島線の車道化計画が発表される。戦争で未着工。
- \* 昭和23年(1948) 尾瀬ヶ原を巨大発電用ダムにする計画が発表される。
- \* 昭和24年(1949) 主要地方道大清水七入線として三平峠・尾瀬沼東岸・大江湿原・沼山を通ることが確認される。

この年江間章子作詞・中田喜直作曲の「夏の想いで」がNHKラジオ歌謡で流され、尾瀬

のミズバショウが有名になる。

- \* 昭和 28 年(1953) 国立公園特別保護区に指定される。開発側と自然保護側の対立深まる。
- \* 昭和 33 年(1958) 厚生省が日光国立公園尾瀬管理事務所を開設。
- \* 昭和 41 年(1966) 大清水から尾瀬沼に向け道路の拡幅工事が始まる。
- \* 昭和 42 年(1967) 厚生省「尾瀬を守る計画」立案。昭和 24 年の計画を特別保護区沿いに迂回するコースに変更する。
- \* 昭和 45 年(1970) 厚生大臣が柳沢～三平峠の工事着工を承認。三平峠下の森林伐採、沢の埋立など始まる。
- \* 昭和 46 年(1971)7 月 1 日 環境庁がスタート、初代長官は大石武一。
- \* 昭和 46 年(1971)7 月 19 日 平野長靖氏等が市民運動組織として「尾瀬の自然を守る会」結成準備会をつくり、21 日に大石環境庁長官に直訴する。
- \* 昭和 46 年(1971)7 月 30 日～8 月 1 日 長官自ら尾瀬を視察。三平道路の中止又は変更を再検討する意向を表明する。
- \* 昭和 46 年(1971)8 月 18 日 環境庁が群馬・福島・新潟 3 県の知事に工事中止と遊歩道化への協力を要請。
- \* 昭和 46 年(1971)8 月 19 日 神田群馬県知事が工事中止と路線変更を検討すると発表。
- \* 昭和 46 年(1971)8 月 21 日 「尾瀬の自然を守る会」が発会する。
- \* 昭和 46 年(1971)12 月 1 日 平野氏、長蔵小屋を冬季閉鎖の準備を終えて沼田の自宅に戻る途中雪の三平峠で遭難死。
- \* 昭和 46 年(1971)12 月?日 工事中止を閣議で承認、尾瀬車道計画正式に廃止。

## 2. 称名寺の場合

- \* 大正 11 年(1922) 称名寺が史跡「称名寺内界」と指定される。指定面積は 2 万坪弱、実時の墓は飛び地となった。(金沢三山を含め惣門(赤門)から山門(仁王門)に至る旧塔頭地域を含めた称名寺旧境内の総面積は 6.8 万坪あり、その 3 分の 1 弱にすぎない)
- \* 昭和 29 年(1954) 称名寺自身が三山を含む寺有地 5.5 万坪のうち指定地などを除く 2.1 万坪を西武鉄道(株)不動産部に売却。
- \* 昭和 41 年(1966) 西武は指定地以外の旧寺域を含む 10.5 万坪の宅地造成を発表し、横浜市建築局に申請する。(第 1 案)
- \* この前後頃から称名寺裏山三山保全運動が始まる。又「史跡称名寺保勝会」は市教委に抗議し、県教委や文部省文化財保護委員会に陳情書を提出。
- \* 市の行政指導などで西武も(第 2 案)(第 3 案)と若干の変更案を提出。

(第 3 案)の内容の概略は ①日向山を削って宅地への進入路(車道)を北進させ、稲荷山との鞍部で西進させる。②金沢山と稲荷山の稜線は背面を削り低くして残す。実時の墓は新しい稜線と道路に挟まれた飛び地となる。③西進道路と「称名寺内界」の間は宅造地に付属する緑地帯とする。④三山を削った土壌は市に港湾埋立て用として売却する。
- \* 昭和 43 年(1968) 市・県の教委や議会、文化財保護委、衆院文教委員会などで称名寺史跡保存について協議した。市・県は西武と話し合いを重ねるも当時の「宅地造成法」では建築局は許可せざる得ない状況。

文化財保護委も大正 11 年の指定史跡「称名寺内界」がネックとなりこれに含まれない三山を含む境内地は文化財保護法では限界を感じていた。

- \* 昭和 43 年(1968)5 月 市建築局は(第 3 案)による宅造許可を正式に西武に伝達、一方文化財保護委は文化庁発足を目前に控え事態打開のため史跡の追加指定をする方針で直接西武と交渉し、さらなる(第 3 案)の修正を求めた。又、市・県とも追加指定範囲に入る西武の所有地の買上げ方針や工事の現状凍結につき話合う。取敢えず工事は中止されたが、協議は追加指定が決定する 10 月まで続いた。
- \* 昭和 43 年(1968)6 月 文部省の外局として文化局と文化財保護委員会を統合して文化庁が設置された。初代長官は今 日出海。
- \* 昭和 43 年(1968)6 月 史跡の追加指定とそこに含まれる西武の土地の買上げ方針をもって文化庁・市・西武三者で新たに境界線を決めた。横浜市長(飛鳥田一雄)が「三山稜線に関する一切の工事を中止し、既に崩された所は復旧する」と発表。
- \* 昭和 43 年(1968)10 月 横浜市と西武が正式に覚書を交換。なお追加指定地のうち西武の所有地は時価で国と県の補助金を得て市が買上げる事になった。「称名寺内界」は地域を追加して(面積は 1.4 倍の 2 万 8 千坪となった)名称も「称名寺境内」と改め、国指定史跡に内定。昭和 47 年 1 月正式に国指定史跡「称名寺境内」として告示された。

衣食足りて礼節を知るといふのが自然保護や文化遺産保護も同じでしょうか。戦後の苦しさは理解しながらも称名寺が寺領を民間に売り飛ばすという無定見なことを行った事に驚きを禁じ得ない。もっとも奈良あたりでも仏像を売り飛ばすお寺もあったようですが。お蔭で本来の景観をも含めた浄土的世界を回復するのに多くの方々が努力、苦心をせざるを得なかった経緯を知りました。平野邦雄氏は本書の中で東大の石井進講師、金沢文庫の前田元重学芸員の努力は大きかったと名前を挙げて称賛している事を記しておきます。

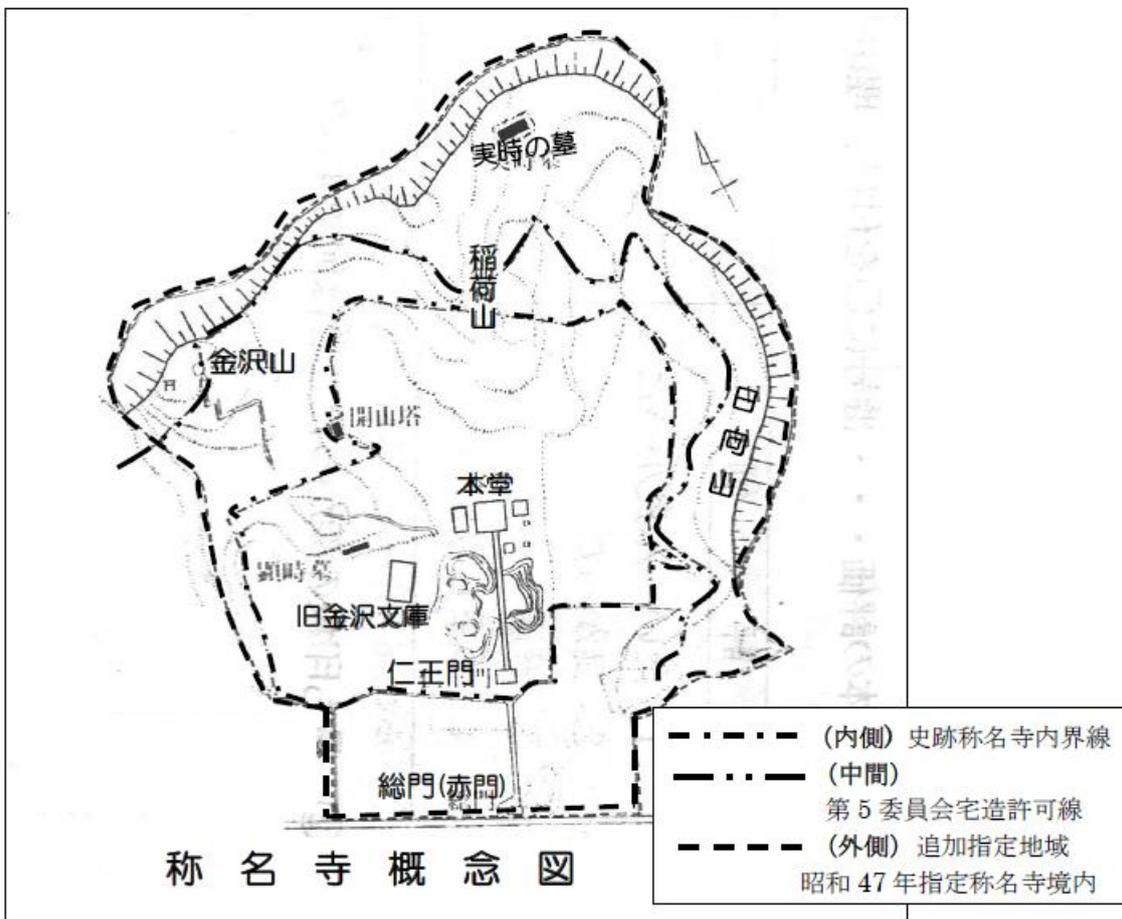
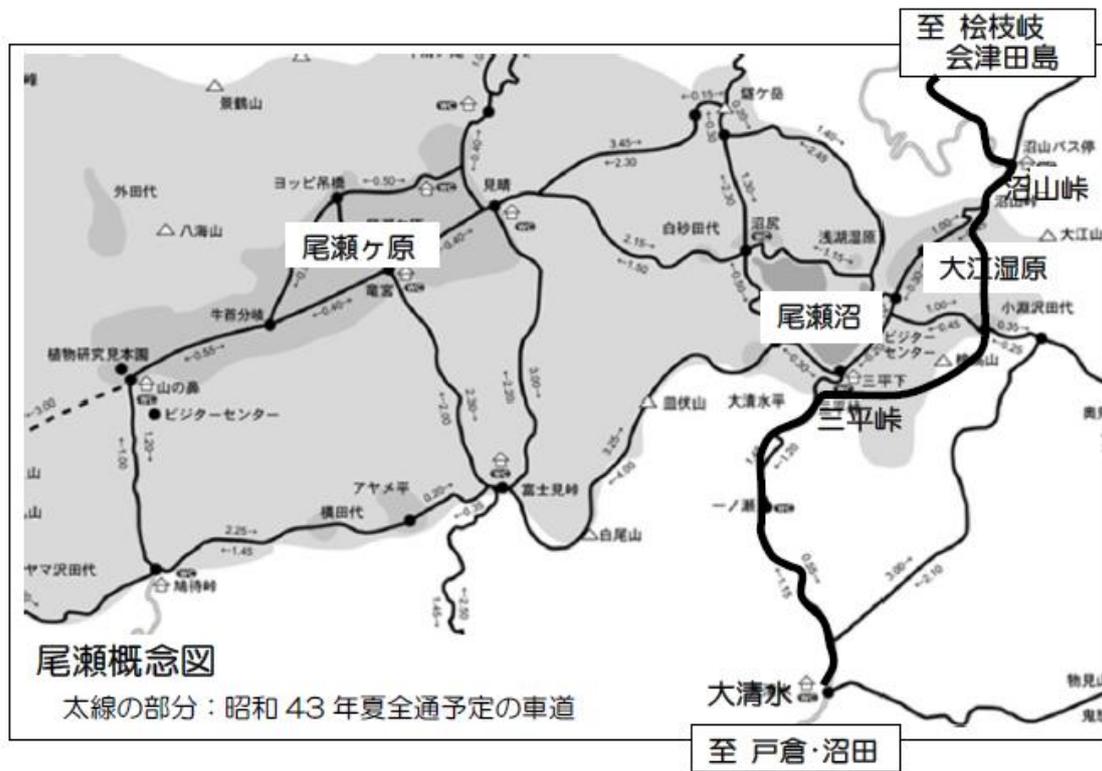
昭和 30 年から昭和 48 年を高度成長期という。極貧の終戦直後から一息ついたところでしょうか。昭和 40 年代は開発と保護の応酬が激しい時代となった。文化財でいえば平城宮、大宰府、多賀城跡、一乗谷、武蔵国分寺、藤原宮跡なども道路新設や田畑構造改善、宅地造成、工場誘致計画などが官・民双方から計画された。調査と保存のために称名寺と同様に不備な法律、不十分な予算の中で多くの方々が苦勞した。

自然保護でいえば昭和 40 年(1965)森林開発公団が林業振興を目的に計画したスーパー林道がある。地域振興を期待する側と自然破壊を危惧する側との応酬があり建設中止になった路線もある。建設された路線も林業衰退で初期の目的を果たせず、南アルプス・スーパー林道のように夏季に登山客を運ぶ村営バスが走るだけで、払い下げられた地元が維持管理に苦勞している所もある。日本では昔から上意下達的な開発が行われてきたがこの頃から文化財や自然の保護に関して市民運動が大きく関わることになってきた。鎌倉の宅造計画に学者・市民・僧が一体となって自然景観保護・歴史的遺産保存に取り組んだ運動は記憶に残っている。国の方も文化庁や環境庁(省)を設置し情報公開も進み、国も国民も意識の改革が進んできたようだ。それでも現在 1700 件に上る指定史跡の保全管理、住民との関わり等やるべき事は減じることはない。自然界を見ても温暖化防止につながる施策など困難な問題が沢山ある。心して見守っていかねばならないし、出来ることはお手伝いしなければと改めて思う次第である。

(注 1) 平野長靖氏没後、沼田高校、京都大学、北海道新聞、尾瀬の長蔵小屋時代の友人たちが彼の遺稿をもとに編集した遺稿集。長靖氏は尾瀬沼湖畔に山小屋「長蔵小屋」を建てた平野長蔵氏を祖父に長英氏を父とする 3 代目であるが 36 歳で早逝した。昭和 10 年生まれ昭和 46 年 12 月 1 日小屋を閉じて沼田に戻る途中雪の三平峠で遭難死。

(注 2) 東京大学文学部国史学科卒、文部省文化財保護委員、文化庁発足後も文化財関係の諸委員

(長)や島根県・福岡県等でも活躍。横浜市歴史博物館館長も務める。1923 年生まれ 2014 年 9 月逝去。



## 会員の動静

### ○会員 NO.52 篠原 豪さん

昨年12月14日の衆議院議員選挙で神奈川1区から立候補。比例代表で当選されました。

### ○会員 NO.106 横山美智雄さん

第59回全神奈川写真サロン公募展において、横山さんの「去りゆく夏」(3枚組み)が全日写神奈川県本部長賞を受賞されました。(朝日新聞2014.11.21)

上記受賞作品は全日本写真連盟神奈川県本部のホームページでご覧になれます。

更に続いて金沢まつりフォトコンテストでも優秀賞に選出されました。

(タウンニュース 2014.12.18)

### ○葛城 峻さん(元会員)

横浜文芸懇話会が毎年1人選んでいる「横浜文芸賞」に元会員である葛城さんが選ばれました。郷土史の分野では初の受賞だそうです。(朝日新聞2014.11.8)

なお、葛城さんは“わ”の会の学習会で2007年7月「金沢の戦争遺跡」、2008年2月の公開歴史講座では「横浜海軍航空隊の遺跡について」と題して講師をつとめました。

2014年(平成26年)11月8日 土曜日 13版 第2神奈川 28



### 横浜文学賞に郷土史家・葛城峻さん(83)

今年の横浜文学賞が横浜市磯子区在住の郷土史家、葛城峻さん(83)に決まった。横浜文芸懇話会が毎年1人を選び、20回目を迎えた文学賞で、郷土史の分野からは初の選出。授賞式は12月9日に行われる。

磯子出身の葛城さんは東京大文学部を卒業した後、観光バス会社などに勤務するかたわら、草の根の視点から地域の歴史を掘り起してきた。

「ペリーの黒船が来る前の横浜には歴史がないといった風潮がある。『ミナト・ヨコハマ』と片仮名で書きたがる人も多い。外来文化を取り入れるのが上手な土地柄であることは確かだが、それだけではありません。縄文時代からこ

### 草の根の視点、地道に探求

の地には人が生きてきた歴史があるのです」と強調する。

地域を歩き、資料を探し、古老の話を聞くという作業を重ねてきた。

「郷土史は行政区分の境界などの枠にとらわれがち。例えば戦国時代の神奈川は、房総の里見氏に攻められたという被害者の歴史として描かれるが、こちらからも千葉を攻めている。境界を越えた歴史を指し出さなくては」と視点の転換の大切さを訴える。

成果は「三浦半島歴史と文学再発見」「横浜南部の戦争遺跡・軍需工場」などとして刊行したほか、市民講座などで披露。「戦争体験を語る会」なども数多く企画してきた。来年2月には磯子の歴史をまとめた「やぶにらみ磯子郷土誌」を刊行する予定だ。

「日本とは何かを考えたい、それも草の根、末端から見つめたいと思ってきました。しかし、アリの地獄のような作業で、気がつくとき抜け出せなくなってしまう」と

(朝日新聞)

# 行事予定

2015年3月～5月の予定

注：表中の「CC」は、「地区センター」の略

	3月	4月	5月
学習会	なし	なし	5月9日(土) 能見台CC 9:30～12:00 総会・学習会 「私たちの山歩き」を歴史を絡めて伝えます ふれあいの道歩こう会 代表 小俣 悦男 氏
寺社を巡る会	3月5日(木) 集合：新沢バス停 テーマ：葉山 訪問先：観正院、新善光寺、万福寺、熊野神社、円乗寺	4月2日(木) 集合：三崎口駅 テーマ：三崎東部 訪問先：妙音寺、法昌寺、金田湾、三樹院	5月7日(木) 集合：三崎口駅 テーマ：三崎西武 訪問先：光照寺、海蔵寺、小網代湾、心光寺、観音堂
古文書を読む会	3月12日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 永嶋家文書 3月26日(木) 金沢区役所 10:00～12:00 ジョン万次郎帰朝記事	4月9日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 永嶋家文書 4月23日(木) 場所未定 10:00～12:00 ジョン万次郎帰朝記事	5月14日(木) 場所未定 10:00～12:00 永嶋家文書 5月28日(木) 金沢公会堂 10:00～12:00 ジョン万次郎帰朝記事
ふれあいの道歩こう会	3月19日(木)(予備20日) 107回=独自コースNo.24 図高山から震生湖 神奈川県 渋沢丘陵	4月9日(木)(予備10日) 108回=独自コースNo.25 武蔵御陵 東京都 八王子市	5月21日(木)(予備22日) 109回=独自コースNo.26 足和田山 山梨県 河口湖・西湖の南側
懐かしの映画を観る会	3月9日(月)12:10～ 金沢CC 小説家をみつけたら(米) 3月23日(月)12:10～ 金沢CC 人間の条件第5・6部(日)	総会后決定	総会后決定
浮雲俳句会	3月29日(日)9:30～ 金沢CC 第88回例会 テーマ 信濃川・亀	4月26日(日)9:30～ 金沢CC 第89回例会 テーマ 隅田川・桜	5月24日(日)9:30～ 金沢CC 第90回例会 テーマ 侍従川・万緑
パソコンを使いこなす会	3月3日(火) 金沢CC WORD 実用講座 —表紙・目次・会議資料— 3月17日(火) 金沢CC EXCEL 実用講座 —予定表— 9:30～12:00	4月7日(火) 金沢CC EXCEL 基礎講座 —カスタマイズ— 4月21日(火) 金沢CC WORD 基礎講座 —検索・置換— 9:30～12:00	5月5日(火) 金沢CC EXCEL 基礎講座 —グラフ— 5月19日(火) 金沢CC Windows 実用講座 —便利な小道具— 9:30～12:00

## 連絡先:

学習会 785-1639(今井) 寺社を巡る会 784-1460(松本) 古文書を読む会 784-4900(真田)  
ふれあいの道歩こう会 782-8147(小俣) 懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)  
浮雲俳句会 774-3878(北野) パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記	発行日
<p>“わ”の会会報も昨年第50号を発行し、新年2015年を迎えるの初めての会報の発行となりました。日頃から、歴史を勉強する方々の会報としての会報の中身をと、編集委員の先輩各位が努力し、原稿依頼、投稿依頼等々、実行してまいりました。本第52号はその点において充実された号になっていると思っています。今後とも、積極的な投稿をお願いいたします。</p> <p>2015年も既に1ヶ月を過ぎ、月日の経つのははやいものです。会員の皆様におかれましては健康に十分に留意され、勉強会への参加、H.P.、会報等への投稿等、昨年以上のご活躍を願っております。 (K.S.)</p>	平成27(2015)年2月14日
	発行月
	発行者
	編集長
編集委員	貝田 誠作 田中 徳明 伊達 一雄 吉田 寿紀 相川 勲 金間 誠一 柴崎 幸治 鈴木 秀幸